



前号末尾で紹介したNOAA-21の観測画像に注目します。②軌道をチェックすると、9月5日05:53の観測です。画像を拡大してみると、白い噴煙の影が茶色の噴煙上ににみえます。白い噴煙は西方に流れるとともに薄くなっているようです。NOAA-21の軌道は北上しています。

改めてJAXAひまわりモニターの観測画像を確認します。③さらに噴煙の高度などを「雲タイプ」レイヤーで、雲としての噴煙を調べてみましょう。「雲タイプ」表と照合します。

- ・茶色い噴煙は低く薄く広がっている
- ・白く見えている噴煙は高くやや濃いのが西方に流れると高度を下げ、薄くなっている

噴煙の高さの手がかりがつかめたので、次は噴煙の構成を調べてみたくなりました。センチネル5Pは地球の大気環境を調べています。次の物質をモニタリングしています。

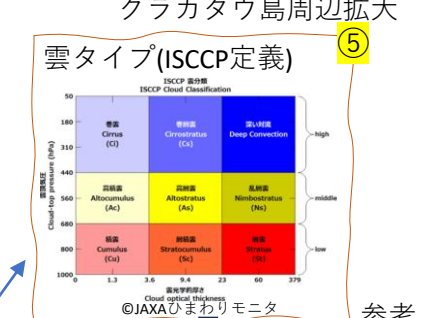
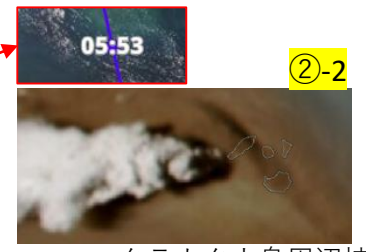
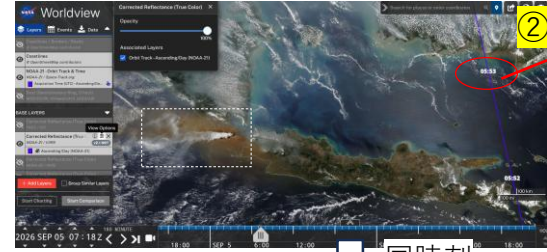
大気汚染物質：二酸化窒素、一酸化炭素、二酸化硫黄、ホルムアルデヒド

温室効果ガス等：メタン、オゾン、エアロゾル
そのうち、下線をしている2つのガス成分と、1つの微粒子指標を同時にカバーしています。それらをコペルニクスブラウザを使って調べることができます。

観測画像⑦の観測範囲を広げていると「おや」と気づきます。ジャワ島北のカリマンタン島に一酸化炭素の広がりがあります。クラカタウ火山噴火では、一酸化炭素の広がりほとんどないようですが、カリマンタン島の一酸化炭素の広がりは何が原因なのでしょう。次号で更に追ってみましょう。

*「クラカタウ」と表記していますが、「アナク・クラカタウ」を略記しています。

追記 9月5日未明のクラカタウ火山の噴煙の高さを、ダーウィン航空路火山灰情報センター (VAAC) はひまわり9号の観測に基づき、高度1.5万に達した発表しています。



雲タイプ (ISCCP定義)

